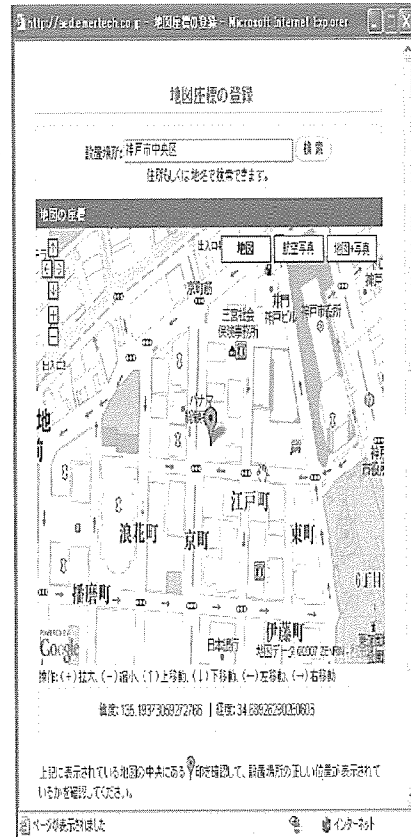


地区の座標	
お電話番号※	078-326-7210 (ハイフンを省いて入力してください)
メールアドレス※	naga@emedtech.co.jp (半角英数字で入力ください。後日、上記アドレスにレジストリに関するURL、講習会や医療情報のご案内いたします。)
設置台数	<input type="radio"/> 1台 <input type="radio"/> 2台 <input type="radio"/> 3台 <input type="radio"/> 4~9台 <input type="radio"/> 10台以上
PADの可否	<input type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 不可 <input type="radio"/> 検討していない (Public-Access Defibrillation 施設関係者以外への一般入による使用)
AED管理者のCPR(心臓蘇生)・AED講習受講歴	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> 1.消防 <input type="radio"/> 2.大阪ライフサポート協会 <input type="radio"/> 3.日赤 <input type="radio"/> 4.AHA <input type="radio"/> 5.医療機関 <input type="radio"/> 6.その他 <input type="text"/> <input type="radio"/> なし
AED設置場所スタッフ(AED管理者を除く)のCPR(心臓蘇生)・AED講習受講率	<input type="radio"/> 80%以上 <input type="radio"/> 60~80%程度 <input type="radio"/> 40~60%程度 <input type="radio"/> 20~40%程度 <input type="radio"/> 20%未満
AEDに関して取り組んでいることがありますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 使用時の記録検証システムを確立している。 <input type="checkbox"/> 定期的に職員が研修講習を受けるシステムを確立している。 <input type="checkbox"/> 定期的にメンテナンスを行っている。 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/>

※は入力必須項目です。

ご担当者連絡先	
ご氏名	<input type="text"/> (半角ひらがな漢字で入力ください)
ご住所	<input type="text"/>



(お名前) AED 講習を受講予定です

AED 講習で取得したい AED がありますか？

使用時の定額決済システムを確立している。
 定額決済システムを準備中である。
 定額決済システムを予定している。
 その他

※は入力必須項目です。

ご担当者様へ

ご氏名 企業名

所属部署 企業名

お電話番号 - ハウスの番号のみで構いません

メールアドレス ※企業名でなく個人名でも構いません

申込内容

写真	説明文	
	デモグラウンドに登録しています。	<input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/>
<input type="button" value="選択"/>		<input type="button" value="登録"/>

確認画面

AEDレジストリシステム

AEDレジストリ登録確認画面

お名前(お名前) 性別

所属部署 企業名

お名前 性別

所属部署 企業名

お電話番号

メールアドレス

お名前 性別

所属部署 企業名

お電話番号


メールアドレス

お名前 性別

所属部署 企業名

お電話番号

メールアドレス

写真	説明文
	デモグラウンド

AEDレジストリへの登録情報の登録が完了しました。

ホームページでの検診情報のご登録が完了しました。併し、これは後日、ホームページの情報を掲載させていただきます。

会員登録の完了後は、検診情報入力前が再登録可能な状態になります。1ヶ月間の検診情報入力期間です。下記URLにて AFD 専用ページの登録作業を行ってください。

ホームページのURL:
<http://naga-naga.co.jp/afp/afp.html>

AEDレジストリシステム

お名前 性別

所属部署 企業名

お電話番号

メールアドレス

心臓停止 あわてず対処



AEDどこにあります

心臓が停止状態に陥った人を蘇生(そせい)させる自動体外式除細動器(AED)がどこに設置されているかを把握するため、厚生労働省の外郭団体が調査を始める。大阪府も四月から、設置場所

国の外郭団体 設置場所調査

を記したマップをホームページ(HP)に掲載する。一般の人でも使えるようになったAEDの設置場所をデータベース化し、一九番通報時に機動的に使えるようにする。

「一九番「突然倒れた人の心臓が止まってます。どついたらいいでしょうか?」消防「〇×デパートの地下一階にAEDがあります」調査に乗り出す厚労省

の外郭団体「日本救急医療財団」(東京)は、こんな活用方法を想定している。調査は業界団体の「電子情報技術産業協会」(東京)を通じて情報を集約、データベースに一元化する。AEDのメーカーが四月以降の点検や納入時に設置場所を確認、同協会が最新情報を駅構内に設置されているAED(大阪府都島区の京阪京橋駅)

大阪府、マップ公開

▼AED 心臓に細かい止状態になる原因の多くはけいれんが起き、血液を送り出す心室細動とされている。総動を起した人を自動的停止状態の患者は処置が一に判断、電気ショックを与え正常な状態に戻す機器。一〇%ずつ低下するとい突然倒れて心停止や呼吸停止

まとめ、「AEDマップ」万八千台に上るとみられる。しかし同財団がホームページで公表している設置場所も約千七百カ所利用できるものになっていくが、これまで「どこに何台あるか」という網羅的な情報は不十分だった。大阪府も大阪大医学部付属病院高度救命救急センターの田中裕・助教と協力しマップを作製、四月にも専用のHPに掲載する方針だ。大阪消防局によると、昨年四月から今年二月までの間、市内では計八件使われた報告が上がっているという。田中助教は「AEDが急速に普及する中、マップで安全な都市づくりにつなげたい」と話している。

院外心停止症例に対する单相性及び 二相性AEDの除細動成功率・転帰に 関する検討 ～ウツタイン大阪プロジェクトより～

梶野健太郎¹、石見 拓²、平出 敦³、野々木 宏⁴、川村 孝²、
西内達也⁵、林 靖之⁶、行岡秀和⁷、田中 裕¹、島津岳士¹、杉本 壽¹

- 1,大阪大学高度救命救急センター
- 2,京都大学予防医療学
- 3,京都大学医学教育センター
- 4,国立循環器病センター
- 5,大阪府立泉州救命救急センター
- 6,大阪府済生会千里病院千里救命救急センター
- 7,行岡病院

背景

臨床例において、二相性AEDの除細動成功率・心拍再開率が单相性AEDに比べ有意に高かったという報告はあるが、神経学的転帰を改善したという報告はない。

(Schneider T et al.Circulation.2000;102:1780-1787)

我々「ウツタイン大阪プロジェクト」は、1998年5月から国際標準であるウツタイン形式を用いて、大阪府下全域の院外心停止症例のデータ(約3万件)を地域網羅的に集積し検討してきた。

(Iwami T, Hiraide A, et al: Resuscitation 2003; 57: 145-152)

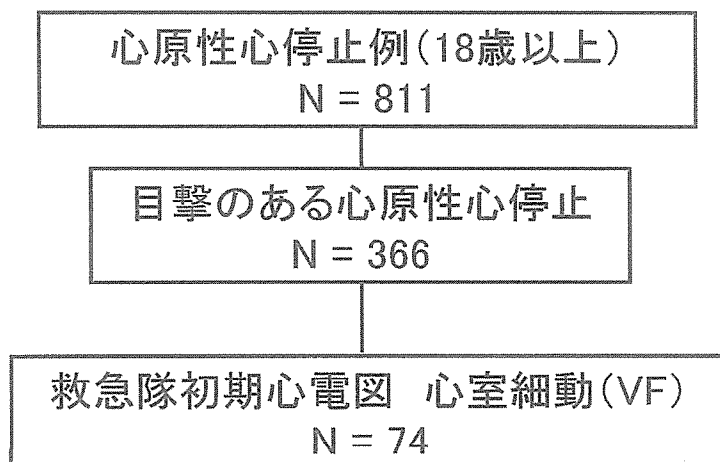
目的

二相性AEDは、単相性AEDと比較して目撃のある心原性心停止例の神経学的転帰を改善させるか、を明らかにすること。

対象

地域：大阪府下6消防の担当地区
(総人口 476万7652人、総面積 645Km²)

期間：平成15年12月1日～平成16年4月30日の5ヶ月



方法

- 救急隊の行う心肺蘇生はG2000に従い、除細動は、各救急隊の所有する除細動器(単相性・二相性の選択は無作為)で行った。
- ウツタイン様式に基づき、救急隊が関与した病院外心停止症例の記録を集計した。
- 心電図や除細動データはAEDから抽出した。全てのウツタイン・心電図データは2名の研究者でチェックした。
- 単相性・二相性に分け、除細動成功率、転帰を比較検討した。
- 群間の差異についてはchi square test、Fisher's exact test Mann-Whitney U testを用いて算出した。

患者背景

	単相性	二相性	
	N = 30	N = 44	
年齢, yr ± SD	65.8 ± 14.4	65.6 ± 13.8	n.s
男性, % (n)	60.0 (18)	75.0 (33)	n.s
Bystander CPR, % (n)	36.7 (11)	29.5 (13)	n.s
虚脱(心停止)場所			
自宅	56.7(17)	38.6(17)	
職場	20(6)	29.5(13)	n.s
公共施設	13.3(4)	15.9(7)	
その他	10.0(3)	15.9(7)	

時間経過

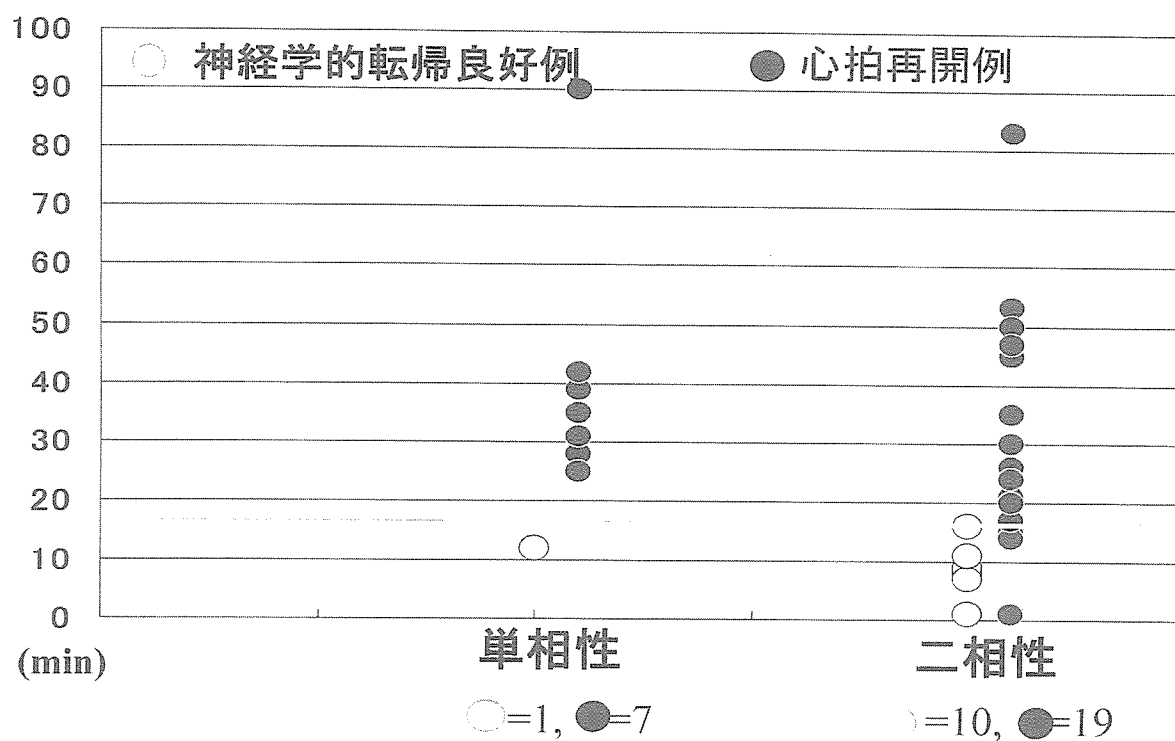
虚脱からの時間経過 min, median (quartile)	单相性	二相性
	N = 30	N = 44
初回除細動施行まで	9.5 (6-14)	10.5 (8-15)
初回シリーズ除細動成功まで [†]	11 (6-14)	10 (8-15)
病院到着まで	26 (22-30)	28 (22-34)

† 初回シリーズ除細動(除細動3回連続以内)が成功した 单相性28例、二相性42例について算出。

転帰

転帰	单相性	二相性	p value
	n =30	n =44	
病院前心拍再開, %(n)	16.7 (5)	38.6 (17)	0.069
心拍再開, %(n)	26.7 (8)	65.9 (29)	0.002
一ヶ月生存, %(n)	10.7 (3)	31.7 (13)	0.048
神経学的転帰良好, % (n)	3.6 (1)	22.7 (10)	0.042

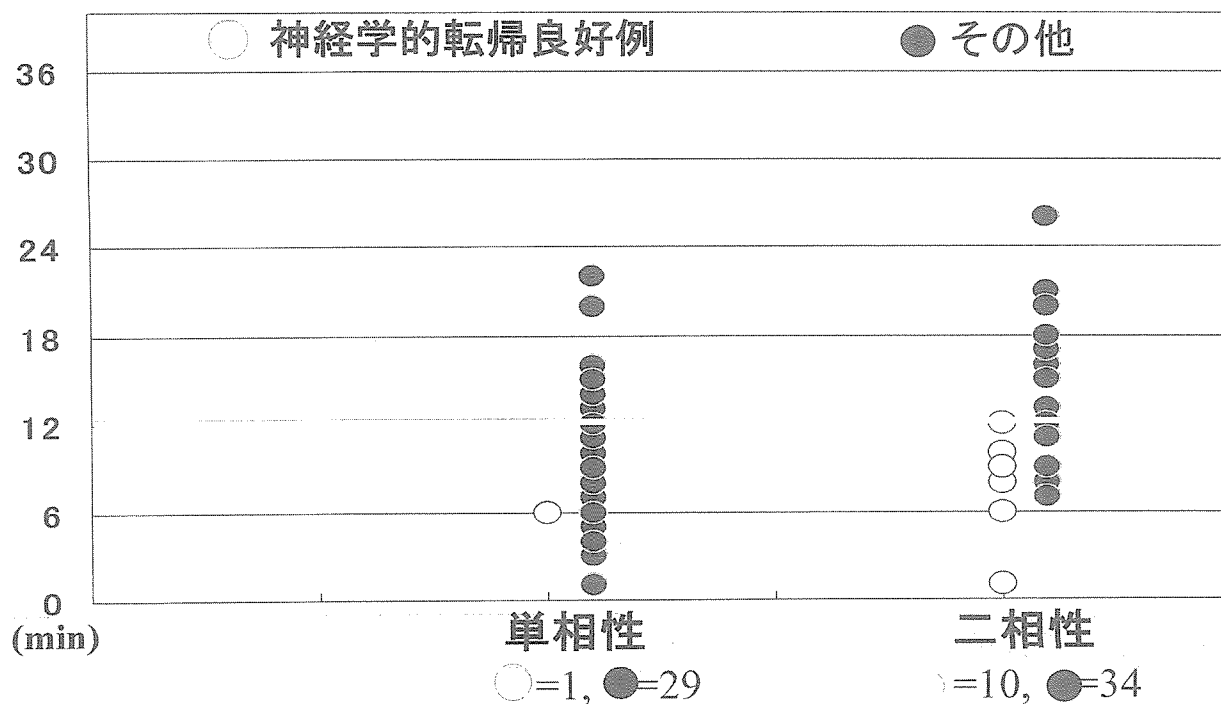
虚脱から心拍再開までの時間と転帰



16分以内の心拍再開率(波形別)

	単相性 N=30	二相性 N=44	P value
16分以内	3.3%(1)	29.5%(13)	0.005

虚脱から初回除細動施行までの時間と転帰



まとめ

- 除細動成功率は单相性と2相性の間に有意差は認められなかった。
- 転帰(心拍再開率、一ヶ月生存率、神経学的転帰良好)は、いずれも二相性波形群で有意に良好であった。
- 神経学的転帰良好例は全例16分以内に心拍再開していた。
- 16分以内に心拍再開している症例は二相性で有意に多く認められた。

結語

二相性AEDは、目撃のある心原性心停止例の早期心拍再開率を上げることにより、神経学的転帰を改善すると考えられた。

厚生労働科学研究費補助金
「循環器疾患等生活習慣疾病対策総合研究事業」
「自動体外式除細動器 AED を用いた心疾患の救命率向上のための
体制の構築に関する研究」(H18-心筋-01)
(主任研究者 丸川征四郎)

分担研究
AED の普及実態の把握、適正配置にかかわる研究
分担研究者 田中 裕 大阪大学大学院医学系研究科救急医学

研究課題B

AED 設置状況の調査システムの構築

研究代表者 近藤久禎
(日本医科大学付属病院高度救命救急センター 助教)

平成19(2007)年3月

目 次

1. 研究者名簿	30
2. 分担研究報告書	30
研究要旨	30
A. 研究目的	30
B. 研究方法	30
C. 研究結果	30
D. 考 察	30
E. 結 論	31
F. 健康危険情報	31
G. 研究発表	31
H. 知的財産権の出願・登録状況	31

資料3B-1 AEDの設置の状況についての報告のお願い（業者への依頼状）

資料3B-2 AEDの設置状況の把握について（報告内容の依頼）

資料3B-3 N社AED設置状況都道府県別（施設別データ）

資料3B-4 P社都道府県別AED設置状況（累計データ）

資料3B-5 AEDの設置状況の把握システム（案）

資料3B-6 AEDの普及啓発について（学会報告スライド）

AED 設置状況の調査システムの構築

研究代表者	近藤久禎	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
研究協力者	横田裕行	日本医科大学付属病院高度救命救急センター
	丸川征四郎	兵庫医科大学救急災害医学
	山本保博	日本医科大学付属病院高度救命救急センター

研究要旨：わが国の AED 設置状況を明らかにするため、電子情報技術産業協会（JEITA）AED ワーキンググループに、各社に属する AED 販売業者の出荷台数に関わるデータの提供を依頼した。

この情報収集システムによって、平成 16 年 7 月以降に販売された AED 台数を月別、都道府県別の設置台数を把握できたが、一部業者では出荷ルートが複数であるため、自社系列の出荷台数を把握できなかった。今後も、4 半期単位での情報提供を依頼している。

不完全であるが、わが国の AED 設置の時系列、地理的な分布を把握できる情報収集システムとして機能させることが可能である。

A. 研究目的

現在、わが国の AED 設置台数は急速に増加しているが、その正確な実態は何れの機関でも把握されていない。そこで、本研究では、AED のより効果的な設置、AED の効果の検証等を進めるための基礎データとして、時系列および地理的な AED 設置台数の正確な動向を把握するシステムの開発を目的とした。

B. 研究方法

AED 販売業者の出荷状況は最も確実な AED 設置台数を把握できると考えられることから、電子情報技術産業協会（JEITA）AED ワーキンググループ（メドトロニック社、フクダ電子社、フィリップス社、レールダル社）に、各社に属する AED 販売業者の出荷台数に関わるデータの提供を依頼した（資料 1）。

依頼した調査項目は、各社の販売台数、平成 16 年 7 月以来の時系列（月別）データ、さらに販売先区分（非医療機関（PAD 用）、医療機関、消防機関の区分）である（資料 2）。

C. 研究結果

現在、わが国では 3 系統の製造業者から AED が供給されており、販売業者の出荷台数も 3 系列にまとめて報告されることになった。しかし、一部業者では供給ルートが複数であるため、自社系列販売業者の販売実績を一括して把握できず、2 系統からの情報に留まった（資料 3, 4, 5）。

把握できた総数（平成 18 年 11 月末現在）は 69,691 台であり、非医療従事者向け（PAD 用）が 40,619 台、医療機関向けが 25,123 台、消防機関向けが 3,949 台である。人口 10 万対設置数は、それぞれ 31.78 台、19.65 台、3.08 台であった。

D. 考察

今回の調査データから、AED は急速に普及していること、PAD の普及は医療機関に続いていたが、現在では全体の半数以上を占めること、PAD の普及は愛知県が先行しており、愛知万博は PAD 普及の契機となった可能性があること、人口対 AED 設置数は、都道府県により大きな開きがあるが、規模の大きい都道府県が先行しているとは言えないこと、などが明らかとなった。

今回の調査によって、初めて AED 設置状況の

時系列かつ地理的分布が明らかとなった。このデータの持つ意義は適正な AED 設置を図る上で極めて大きく、より正確なデータを収集できるようにシステムの改善が望まれる（資料6）。

さらには、今後の課題として、AED 設置・使用状況のモニタリングと評価システムの構築、AED 実施事例の AED 内部データ解析、メディカルコントロール体制等を通じた監督、AED 普及の効率的普及法・阻害要因の分析などを挙げることができる。今回のデータは、心肺停止傷病者の予後統計との関連でも活用できる可能性があり、継続したデータの集積が強く望まれる。

E. 結論

AED 販売業者の協力を得て、出荷状況から AED 設置台数を把握するシステムを構築し、現在までの AED 設置台数を調査した。まだ全ての設置台数を把握できる状況ではないが、得られたデータは貴重であり、今後も継続してデータの集積が強く望まれた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文発表

なし

講演発表

1) 近藤久禎、横田裕行、丸川征四郎、山本保博：AED の普及啓発について。日本集中治療医学会第 34 回学術集会（丸川征四郎会長）
H18 年 3 月 神戸(資料 7)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(案)

平成19年1月 日
事務連絡

電子情報技術産業協会
AEDワーキンググループ
事務局 殿

厚生労働省
医政局 指導課

AEDの設置の状況についての報告のお願い

昨今、各地域においてAEDの設置が徐々に広まりつつありますが、AEDは、地域の病院前救急医療における重要な役割を果たすことから、都道府県等がその地域のAEDの設置状況についての情報を把握することが望まれます。

また、厚生労働省としても同様に、全国のAEDの設置についての状況を把握したいと考えます。

そのため、貴団体に属するAEDの設置販売業者が平成19年4月1日以降に販売するすべてのAEDについて、その設置者、設置者連絡先、種類品番、設置場所、設置年月、メンテナンス状況等に関する情報について、貴団体にて取りまとめられた上、日本救急医療財団に御報告いただくよう要望いたします。平成19年3月31日までに販売・設置されたAEDについても、可能な限りの情報をご報告いただくようお願いいたします。

この要望書により日本救急医療財団に報告されたAEDに関する情報については、日本救急医療財団より、当職、各都道府県、国民等に情報提供されます。設置状況についての各情報項目の流れは、別紙1.2を参照にしてください。

また、貴団体に属するAEDの設置販売業者においては、AEDの販売等の際に、AEDの購入者、設置者に対して、AEDの設置の状況についての情報が日本救急医療財団、厚生労働省、都道府県等に対して報告される旨をご説明いただくようお願いいたします。

AEDの設置状況の把握について (報告内容の依頼)

AEDの設置状況の把握について(報告方法(平成19年4月1日以降に設置されたもの)について)

報告経路	報告方法及び掲載方法	報告頻度	報告項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
				設置者とその種別	設置場所の所在地(住所)とその種別	設置位置	担当課(担当者)	TEL	メーカー名	機種名	パッドの種類	設置時期	AED設置者による公表の可否	台数
①	全県分報告	随時		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②	全県分報告			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③	全県分報告	3ヶ月毎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④	各県に県ごとに報告	3ヶ月毎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤	全県分報告	3ヶ月毎		△(種別のみ)	△(県名のみ)							○	○	○
⑥	全県分HP掲載			△(種別のみ)	△(県名のみ)							○		○
⑦	各報道府県に任せる			○	○	○	○				○	○	○	○

いままで任意で報告
 いまでも報告させている
 いままで一部実施
 今回新たに報告させる

報告が必要

- 記入の注意方法
- A 設置者の代表者名とその設置者の種別を入れる(例、公的団体・民間団体・個人)
 - B 設置者の住所とその設置者の種別を入れる(例、医療機関・公共施設・保健所福祉事務所・介護保険施設・公園レジャー施設・スポーツ施設・交通機関・個人・その他)
 - C AEDの置かれている場所を出来る限り入れる(例、1階玄関、改札口、受付付近、5階トイレの前等)
 - D AEDを管理して担当者の名前
 - E AEDを管理して担当者の電話番号(出来る限り上記Dの担当者の電話番号)
 - F メーカー名
 - G 機種名
 - H 小児用電極も用意していれば小児用も用意と記入
 - I 年月日送記入
 - J 設置の公表の可否。納入先の確認が必要。
 - K 基本的には1台。複数台数同じ場所に用意していればその台数を記入

【報告の対象】
 ⑤は把握できていないすべてのAEDについて各県ごとの施設種別と台数のみを報告
 ③以降は個人(家庭を含む)で設置しているものは対象から除く。ただし、月毎の台数は報告

【公表の対象施設】
 ⑥は各県ごとの施設種別と台数と3ヶ月ごとの設置台数のみを公表する。
 ⑦は県の判断で公表の対象施設、報告項目の範囲を決定し、AED設置者による公表の可否を考慮した上で公表する。

【変更届け(廃止を含む)】
 ⑤は廃止および台数の変更の際に報告、③④は報告が必要な上記項目に關して変更する場合に報告

※平成19年4月1日以前に設置されたものについては、県毎の「K」については、全例報告する。
 その他の情報については、可能な範囲で情報提供する。

AEDの設置状況の把握システム(案)

AEDの設置状況の把握システム (案)

